

株式会社日経統合システム

NAS日経統合システム

所在地：東京都江東区南砂5-8-1
URL：https://www.nasnet.co.jp/

複数の仮想化基盤から成るIaaSのデータバックアップを Nutanix Cloud Platform と Veeamで統合管理 不具合の自動検知・通知で効率的なBCP対策を実現

[BEFORE]

- ◆既存のバックアップツールの提供・サポートの終了が決定し、後継製品が必要だった
- ◆既存のバックアップツールは、一つの仮想化基盤しか対応しておらず、複数のツールを使って運用していた

[AFTER]

- ◆複数の仮想化基盤から成るIaaSのデータバックアップ管理を一元化
- ◆不具合の自動検知/通知により、運用工数を大幅に削減

IaaS基盤のバックアップの刷新に着手

1987年の創業以来、日経グループを中心にIT基盤を預かるデータセンターとして着実に発展する日経統合システム。情報システムの運用管理やシステム開発、ネットワーク構築などの技術やノウハウを活かしながら、日経グループ以外の企業も対象にITサービス/ソリューションを提供している。またデータセンター事業では、ハウジングやコロケーション、事務スペース、仮想化技術を用いたホスティング、さらにはIaaS(Infrastructure as a Service)として「セキュアWebサービス」を提供している。長年にわたって日経グループを支えてきたIT運用のノウハウを活かして、IT基盤やIaaSの安定運用・稼働を実現できることが同社の大きな強みだ。

同社のセキュアWebサービスでは、仮想化ソフトウェア基盤と親和性の高い無償のツールを用いてデータバックアップを行っていた。このツールは、データバックアップの不具合を検知して担当者にアラートを発信する機能がなく、プログラムを自作して毎日稼働させ不具合の発生に備えるといった手間がかかっていた。この無償ツールの提供とサポートが終了する

ことが判明し、新たなデータバックアップソリューションを探す必要に迫られた。

NutanixとVeeamの連携システムを新たなバックアップツールに採用

同社では、上述した無償のツールを使い、設定したタスクに従って自動的に専用ストレージにデータのバックアップを実行できるよう仕組みを整えていた。新たなデータバックアップソリューションを選定するに当たっては、現行のデータバックアップ運用の効率性が維持かつ向上できること、さらにコストパフォーマンスに優れていることの2点を重視したという。

同社 データセンター事業本部の三島徹生氏は「IaaSにおけるデータバックアップにかかる費用はお客様に転嫁することになります。ですので、無償ツールを商用ソリューションへと切り替えざるをえなくなったとはいえ、高額なデータバックアップソリューションを導入することは避けなければなりません。そのため、機能・性能・コストのあらゆる面でベストの製品を選択する必要があったということです」と語る。

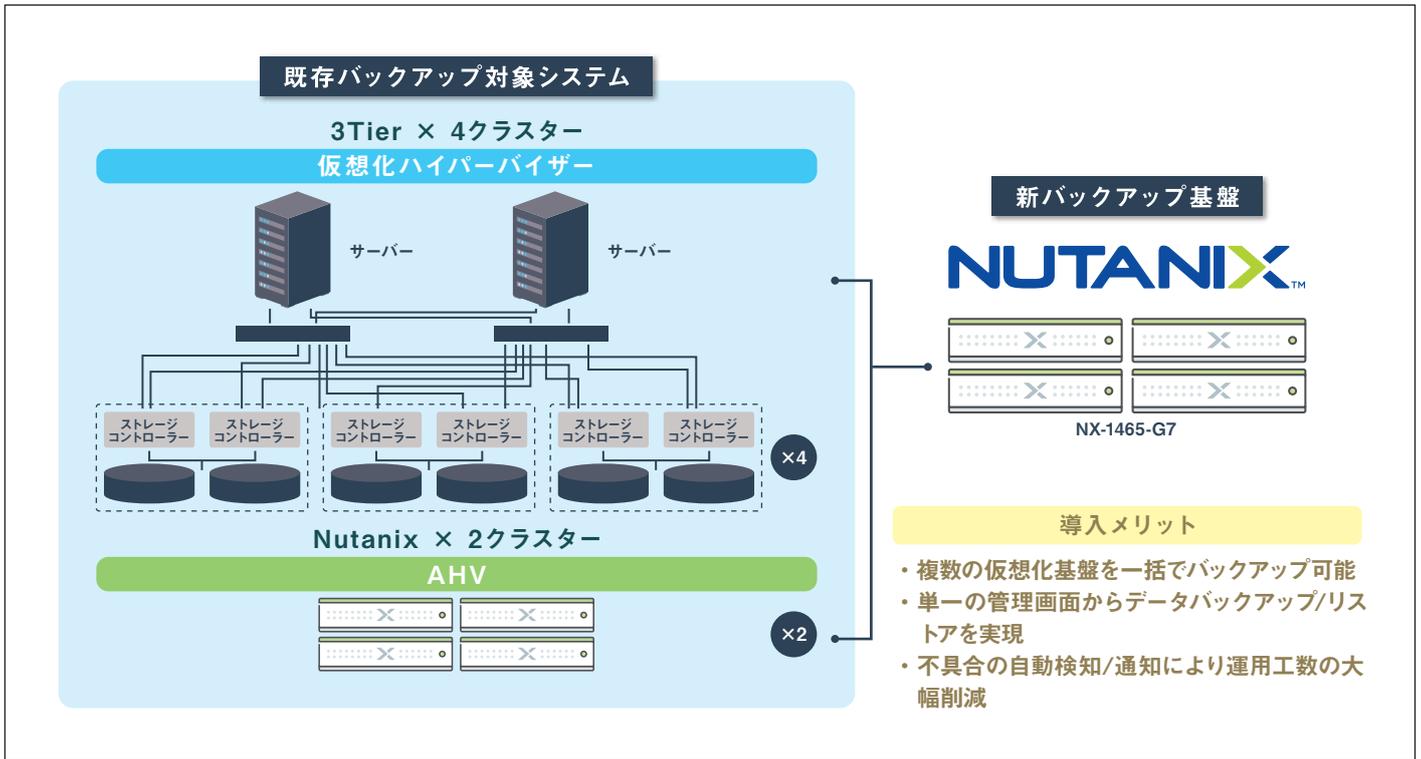
同社は、2017年頃からNutanixを用いて3層構成の仮想化基盤からハイパーコンバージドインフラストラクチャー(HCI)

への移行を進めてきた。データバックアップのソリューションを探していたところ、エンタープライズ向けデータ保護ソリューションVeeamとNutanixの連携システムが米国で発表されたことから、その導入の検討を開始した。

「データセンター事業を展開するうえで、基盤運用の効率化は最重要課題です。Veeamは、多数の仮想マシン(VM)や物理サーバのデータバックアップ、リカバリーを統合的に管理できる優れたソリューションです。コストを抑えながら自社で無償ツールの代替環境を構築する必要があり、構築や運用にかかる手間に対して懸念がありました。そんな中でNutanixとの連携システムが発表されたことは、私たちにとってはまさに「渡りに船」でした。」と三島氏は語る。

こうして、さまざまなデータバックアップ製品を比較検討した結果、スモールスタートが可能で、安価で実績があり、抱えていた不具合の自動検知と担当者への通知機能もあることが後押しとなり、Nutanixの導入を決定した。

導入後は従来のツールからの移行を段階的に進めており、Nutanixによるデータバックアップの対象ボリュームは約70VMに上っている。



不具合の自動検知と通知機能で効率的な運用を実現

三島氏は運用について「Nutanixは、従来の環境と変わりなく、データバックアップを実行でき、処理の自動化も問題なく行っています。現時点ではまだ試用段階で、Nutanixが持つ豊富な機能の一部しか活用できていませんが、データバックアップが一元管理できるのでこれまで以上に効率化できている手応えを感じています」と語る。

従来の無償ツールではデータバックアップの不具合を検知してアラートを担当者に発信する機能がなく、そのためのプログラムを自作して運用していた。Nutanixでは標準機能として不具合の自動検知と担当者への通知の機能が備わっており、データバックアップ運用に要する工数を削減することにつながっている。

さらに、「これまで使用してきたデータバックアップツールは、一つの仮想化基盤に対するデータバックアップしか対応していませんでした。IaaSは複数の仮想化基盤で構成されていますので、複数のツールでデータバックアップを行って管理していました。Nutanixの場合、単一のコンソールからすべての仮想化基盤の管理はもち

ろん、データバックアップ、リカバリーも一元管理できるため、その効率化の効果は大きいと感じています。」と三島氏は語る。

今後のIaaSの拡張にも活用

同社は今後、サービスプロバイダー向けライセンスであるVeeam Cloud & Service Provider (VCSP)を購入し、AWSのような主要なクラウドプラットフォームを利用したIaaSの拡張にNutanixを有効活用していくことも検討している。

「Nutanixを活用すれば、AWSなどの主要なクラウドプラットフォームをバックアップサイトとして使ったディザスタリカバリー (DR) サービスが比較的容易に展開できるはずです。これからはバックアップの効率化だけを追求するのではなく、Nutanixの機能をIaaSの拡張に活かすことも検討しています」と三島氏は語る。さらに「当社は今後数年以内にデータセンターのインフラ基盤全体をNutanixへ全面的に移行する計画です。その中でVeeamとの連携システムという最先端のソリューションをいち早く導入し、ITインフラのバックアップの一元管理を実現したことは、お客様からの一層の信頼獲得につながると期待しています。今後もNutanixとVeeamの

メリットをお客様に提供する価値へと転換すべく、パブリッククラウドの活用などを含めたさまざまな可能性を追求していきたいと考えています」と展望を述べた。

お問い合わせ

株式会社ネットワークルド

<https://www.networkworld.co.jp/>

✉ nutanix-info@networkworld.co.jp

本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11-15
住友商事神保町ビル
TEL : 03-5210-5020, 5031, 5095

関西支店 〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル 24F
TEL : 06-7777-4174

中部支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23
ニッパビル 10F
TEL : 052-588-7611

九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1
九勤筑紫通ビル 3F
TEL : 092-461-7815

*記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。
2022年1月